



「三島村と出会えてよかった！」

～しおかぜ留学生は三島村でたくさんのお話を学んでいます～

しおかぜ留学生が留学して思ったこと、学んだことなどを地元の新聞「南日本新聞」の投稿欄にたくさん投稿してくれていますので紹介します（学年は掲載当時です）。

留学を考えている「あなた」「保護者の皆さん」、ぜひ参考にしてください！

[2025年度]

【掲載内容】

[題 名]	[掲 載 日]	[出身都道府県]
1 初めてがたくさん	2025年 5月17日	鹿児島県
2 魅力届いたかな	2025年 11月 3日	千葉県
3 あしたよなあ	2025年 11月 19日	千葉県
4 幸せを求めて	2025年 12月 26日	鹿児島県
5 先生の「逃げていい」に救われた	2026年 2月 2日	大阪府

初めてがたくさん

三島竹島学園 8年生

僕は、4月から竹島に留学をしています。

初めはとても緊張しましたが、周りの人のサポートもあり、楽しく過ごせています。竹島に来て初めに思ったことは「名前のおとこ、島にはほぼ竹しかない」ということです。

島は竹で覆われており、普通の木が珍しいくらいです。こんな景色を見たのは初めてでした。

竹島には、二つのガジュマルが結び付いた「縁結びのガジュマル」と言われている木があります。垂れているつたを触りながら願い事をする、願いがかなうと言われている。

学校では、授業や昼休みにみんなでジャンベをたたきます。ジャンベとは、ヤギの皮で作った太鼓で打楽器のことです。

みんなが教えてくれたおかげで3曲のうち1曲を覚えることができました。

僕は竹島のような自然豊かなところに来ることができてとてもうれしいです。中学2年生として年下をまとめていきたいです。



(2025年5月17日 掲載)

魅力届いたかな

三島片泊学園 9年生

10月7日に、三島村の3島を巡る観光イベント「ワンデージオクルーズ」がありました。

私たちは観光客の方々に片泊のことを知ってもらうために、島をテーマにクイズを作り、授業で準備を進めました。

最初は意見がまとまらず苦戦しましたが、先生の助言で、片泊にいる固有の虫やジャンベ、地域の特色を題材にすることに決めました。

最初は楽しんでもらいたいあまり、面白さが先行して片泊の魅力を伝えられないクイズになっていました。そこで片泊の良さを伝えつつ、楽しんでもらえるように工夫を凝らしました。

本番の日は波が高く、船が片泊に来ることができませんでした。しかし動画で発表することになりました。緊張しながらも、片泊の魅力を伝えようと一生懸命発表しました。少しでも伝わっているといいなと思います。

今回の活動を通して、ただ面白ければよいのではなく、聞く人の立場に立って伝え方を工夫することの大切さを学びました。



(2025年11月3日 掲載)

あしたよなあ

三島大里学園 6年生

教育実習の先生が来ました。保健室の先生になるための勉強をするためです。

授業を見たり、給食を一緒に食べたりしていろいろな思い出ができました。昼休みには一緒に鬼ごっこをして、とても楽しかったです。

3週間はあっという間でした。今日はもう見送り式です。船がだんだん見えてくるとさびしくなってきました。エールを送り、船と岸壁を結ぶ紙テープを見ると泣きそうになりました。

私たちが「あしたよなあ」と言うと先生も返してくれました。「あしたよなあ」とは私の住んでいる大里で、また会おうという意味です。思い出を残しておくために紙テープのあまった芯は大事にとっています。

家に帰ってお別れ式の時にももらった手紙を読むと泣いてしまいました。教育実習の先生も頑張っていると思うので、私も学校で勉強を頑張ります。



(2025年11月19日 掲載)

幸せを求めて

三島大里学園 8 年生

私の家は、お弁当屋さんです。食材がたくさん必要です。

両親は、なるべく新鮮でおいしい材料を仕入れて、食べられる部分は無駄なく使っています。肉、魚、野菜、どれも誰かが育てたものなので、ありがたくいただくようにしているからです。

フィンランドについて書かれた新聞記事「幸せを求めて」を読みました。「今あるものを大切にして感謝する」「足るを知る者は富む」とありました。

自分はあまり感謝を伝えられていないと思いました。私はご飯を食べている時、好きなことができている時、生きている今が一番幸せです。

これからは両親や周りの人に感謝を伝え、今あるものを生かす「フィンランドスタイル」で生きていきたいです。



(2025 年 12 月 26 日 掲載)

「先生の逃げていい」に救われた

三島竹島学園 9 年生

私は先日、国語で「坊ちゃん」を学んだ。お手伝いの「清」が唯一、かわいがってくれるという環境で育った坊ちゃんが、教師になる道を選んだことに成長を感じた。

私は今の学校に転校する前は、大阪の学校に通っていた。しかし教室には行けず、別室に通っていた。そこで出会った先生が私にとっての清のような存在だった。

先生は「逃げていい。逃げた先でどうするかが大切」とよく言っていた。私は何度この言葉に助けられたかわからない。

坊ちゃんが立派な大人になると信じていた清のことを、坊ちゃんも信じていたように、私も先生を信じていた。この言葉があったからこそ、私は今の学校に離島留学する決意がついたのだ。

私は今受験生で、不安は尽きない。だがそんな時こそ先生の言葉を思い出す。これからもこの言葉を胸に据えて、頑張っていきたい。



(2026 年 2 月 2 日 掲載)